

「エコ・ファーストの約束」  
の進捗状況について  
2010



株式会社タケエイ

はじめに・・・

当社は、環境省により創設された「エコ・ファースト制度」（詳しくは：<http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/index.html>）にもとづき、産業廃棄物処理業界における第1号として、「エコ・ファーストの約束」を宣言いたしました（2008年11月11日）。

2009年には、エコ・ファースト企業23社（2010年10月現在30社）でエコ・ファースト協議会を設立し、環境保全の取組を間断なく前進させること、環境行政及びエコ・ファースト企業間の連携強化を目指しております。

「エコ・ファーストの約束」の進捗状況につきまして、ここに公表いたします（2009年度実績ベース）。



## エコ・ファースト推進協議会を設立いたしました。

環境保全の取組を間断なく前進させ、環境行政及びエコ・ファースト企業間の連携強化を目指します。

### エコ・ファースト推進協議会設立趣意

環境先進企業として環境省からの認定をされている私ども「エコ・ファースト企業」は、かねて環境大臣に個別に宣言している「エコ・ファースト約束」の確実な実践と、先進性・独自性に富む環境保全活動のさらなる充実強化等を「エコ・ファースト企業」が連携して強力に推進していくことを目的に「エコ・ファースト推進協議会」を設立しました。

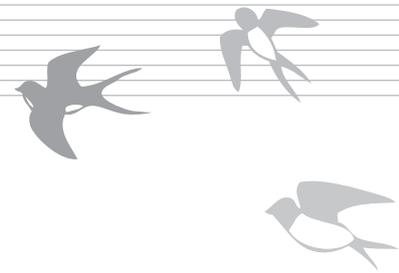
協議会の設立は「エコ・ファースト制度」が創設されて1年余が経過したことを契機に、エコ・ファースト企業が環境保全の取組を間断なく前進させるとともに環境行政との連携及びエコ・ファースト企業間の連携を強化することにより「エコ・ファースト制度」の発展を目指すものであります。

重要性が一段と高まってきている「地球環境保全」と「地球社会全体の持続可能な発展」という二つの目標の達成に不可欠な環境トップランナー企業群の環境保全活動の一層の充実・強化の推進をいたします。

### 決意表明

私ども「エコ・ファースト推進協議会」参加企業は、各業界の環境保全のトップランナーとして、環境省とお約束した先進的な取組を確実に実行するとともに環境省のご指導を得ながらエコ・ファースト企業間の連携を図り、地球温暖化対策など我が国の地球環境保全の取組のさらなる前進に寄与して参ります。

平成21年12月9日  
エコ・ファースト推進協議会



# エコ・ファーストの約束

～環境先進企業として地球環境保全の取組～

環境大臣 齊藤 鉄夫 殿

平成20年11月11日

株式会社タケエイ  
代表取締役社長 三本 守

## 1 建設廃棄物のリデュース・リユース・リサイクルを積極的に推進します。

- 関連法規（廃棄物処理法、建設リサイクル法、循環型社会形成推進基本法等）に基づき、廃棄物の適正処理および再資源化、特に、建設廃棄物に関する3Rを適正かつ積極的に推進します。
- 2004年度より開始したお客様への分別排出支援サービスについて、今後とも先駆的な規模と質において一層の拡充を図るため、年間の延訪問数6000回、新規支援先100件、排出現場での平均分別率65%以上を確保することで、リサイクルの推進及び廃棄物のリデュース・リユースに貢献いたします。内容としては、分別排出支援のためのツール開発、排出量予測及び実績管理支援、分別デモンストレーション、現場での分別教育支援、工期毎の分別コンサルティング（発生抑制、ゼロエミッション計画）、その他の有用な情報提供を充実いたします。
- 排出状況に応じた最適な車両等（ダンプ車、コンテナ車、クレーン車、分別容器）を提供することにより、分別排出をサポートし、円滑なリサイクルを促進します。
- 主要な取扱品目である建設混合廃棄物については、近年、全国のリサイクル率が9～36%で推移していますが、グループ全体として、解体工事や中間処理施設から排出される性状が細かく際立ってリサイクルが困難な混合廃棄物も対象に入れたりリサイクル率向上に取り組む、最先端の技術を導入した機械技術を活用し、2012年までにリサイクル率90%以上を目指します。
- また、廃石膏ボードについては、単品リサイクル施設を活用し、2012年までにグループ全体の受入れ量を2007年比で50%増として一層のリサイクルを推進します。

## 2 循環型社会形成に向けた取組を積極的に推進します。

- 排出事業者、処理業者、再資源化品利用者（製品・素材メーカー）等の関係各位による連携スキームを構築し、均一な品質と安定したロットの再資源化品を市場供給することで、廃棄物の循環的資源利用の推進を目指します。
- リサイクル専門の単品製造工場の整備等に努めることで、グループ全体の再資源化品の扱量を、重量ベースで、2012年までに、2007年比で30%増を目指します。

## 3 低炭素社会に向けた取組を積極的に推進します。

- 廃棄物の収集運搬サービスにおいて、物流拠点の検討、アイドリングストップの徹底、低公害車導入の推進等を実行し、運搬効率の向上を図ることで、廃棄物回収件数1件当たりのCO<sub>2</sub>排出量を、2012年までに、2007年比で5%削減します。
- 廃棄物の運搬から、処理および再資源化までの一連のサービスにおける総CO<sub>2</sub>排出量を把握し、モーダルシフトや、バイオマス発電利用先への優先搬出等のサービスを提供することで、搬出重量当たりのCO<sub>2</sub>排出量を、2012年までに、2007年比で5%削減します。
- オフィス内でのクールビズ、ウォームビズを実施し、事業活動に伴う燃料消費量、電気使用量を把握の上、各部門毎の削減に努め、省エネルギー化を徹底します。

株式会社タケエイは、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。





## ② 分別支援サービス

当社では、2004 年度に、建設現場における廃棄物の分別排出を促進し、リサイクル率の向上を目的とする支援専門部署として「分別支援チーム」を設立しました。

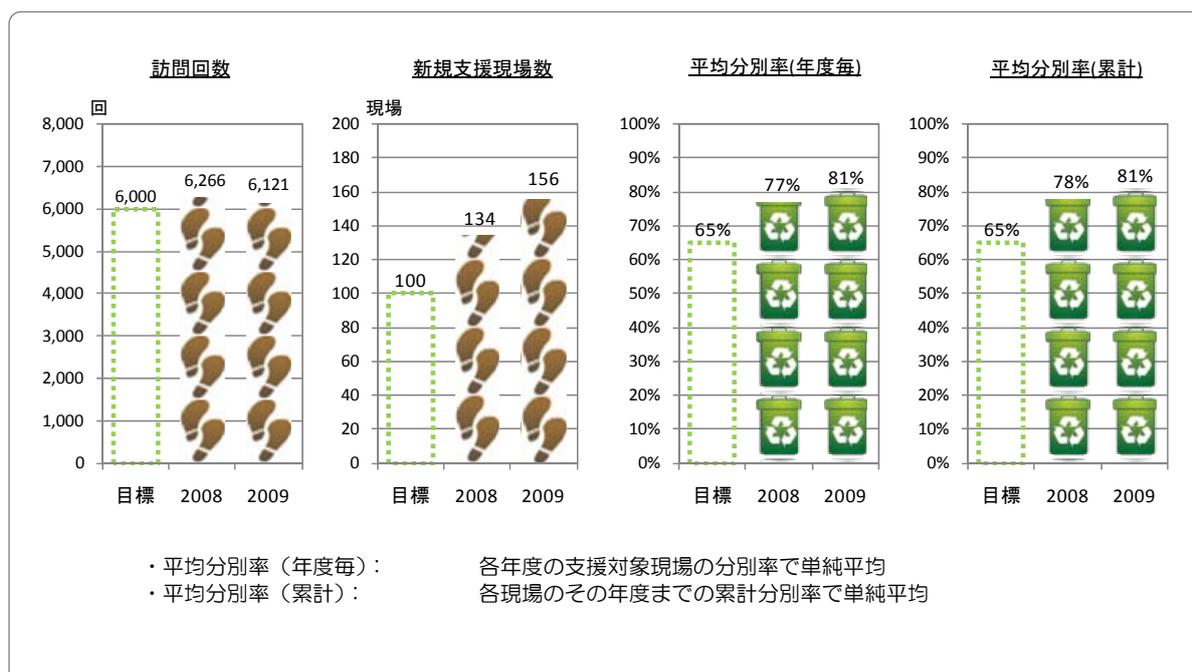
以来、分別推進の啓発活動として、現場担当者や場内作業者の方に対し、職長会や朝礼等において、分別教育や分別デモンストレーション、或いは分別看板やスローガンの掲示などを実施しています。また、工期に応じた分別コンサルティングや排出量予測と実績管理、竣工時の総括などの支援も行っています。

2009 年度は、従来の「分別支援チーム」を発展的に解消し、各営業担当者全員で分別支援を行う体制にシフトしました。これからも、更に多くの現場で分別推進活動が進むよう、支援してまいります。

また、当社のこれまでの分別推進活動を通じて蓄積された、さまざまな事例やデータを取りまとめ、廃棄物リサイクルの重要性を啓蒙するとともに、現場での分別活動に利用できるよう、「めざせ ゼロエミッション」(大成出版社、2007 年 9 月)を出版しました。

2009 年度の分別支援活動は、延べ訪問回数 6,121 回、新規支援現場数 156 件、支援現場平均分別率 81%となりました。これらの結果、前年度に引き続いて、すべての項目について目標値の 6,000 回、100 件、65%以上(同順)を達成しました。

### <参考資料> 4 分別支援の推移



### ③ 豊富な収集運搬メニュー（車種、容器）によるリサイクル推進

当社の収集・運搬業務は、主に首都圏において建設現場から排出される建設系産業廃棄物を対象としています。

建設廃棄物は、工期により限定された期間において、散在する建設現場毎に、多種多様な品目が排出される、という特徴を有しています。

当社では『小口巡回分別回収システム※』を整備し、顧客のリサイクル推進への貢献を目指しています。

（※詳細：<http://www.takeei.co.jp/solution/jyunkai.html>）

#### <参考資料> 5 保有車両台数

##### 株式会社タケエイの収集運搬車両台数

- 2010/9 現在

車種	台数
2tコンテナ車	66
2tダンプ車	20
3tクレーン車	23
4tクレーン車	4
4tコンテナ車	40
4tダンプコンテナ車	80
増tクレーン車	18
産廃パッカー車	2
一廃パッカー車	8
25tダンプ車	1
大型トレーラー	1
大型コンテナ車	8
大型平ダンプ車	2
合計	273

- 直近の情報 産廃ネット(タケエイ) <http://www2.sanpainet.or.jp/>
  - ↳ 施設及び処理の状況（収集運搬業者）
  - ↳ 運搬車両ごとの車両形式、規模・能力（積載量等）

※車種及び容器のサイズについては、以下のリンク先をご参照下さい。

[http://www.takeei.co.jp/services/unpan\\_2.html](http://www.takeei.co.jp/services/unpan_2.html)

#### ④ 建設混合廃棄物のリサイクル率

一般的に建設混合廃棄物は、様々な品目が混在している状態や複合状態で排出されることが多く、リサイクルが難しいとされています。

また、近年排出現場での分別排出が推進されていることで、発生量（受入量）は減少しているものの、反面、排出現場で分別できなかった廃棄物は、選別・リサイクルがより難しい重量系の廃棄物へと性状が変化しています。

タケエグループは、川崎リサイクルセンター、四街道リサイクルセンター、株式会社リサイクル・ピア※東京エコタウン工場の3つの拠点工場において、建設工事や解体工事等から発生する建設混合廃棄物を中心に、受入・処理・リサイクルを行っています。

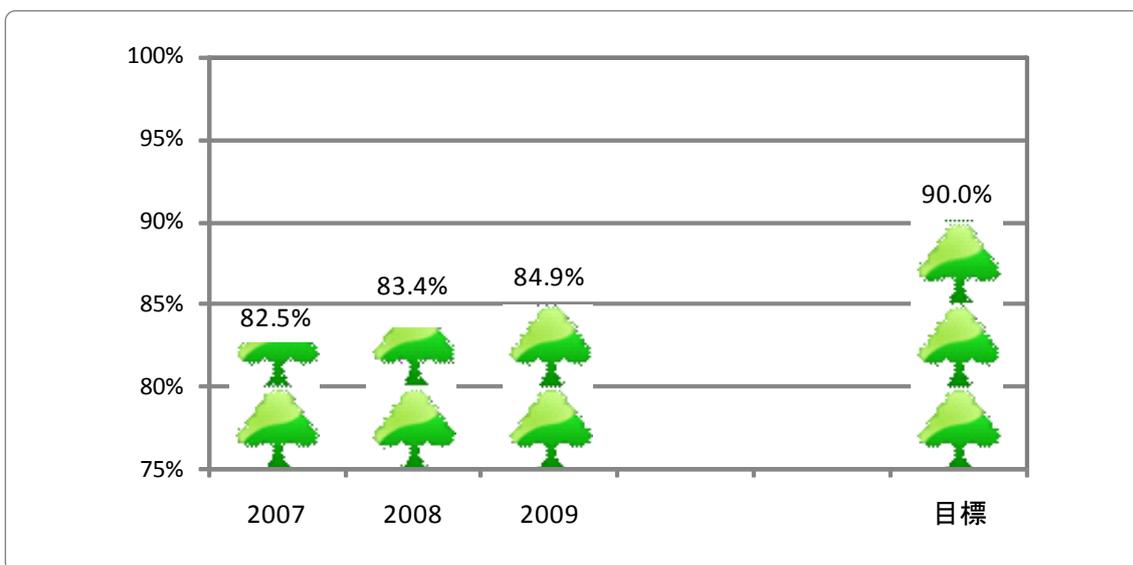
リサイクルが難しいとされる建設混合廃棄物を徹底してリサイクルするため、各種の機械選別設備や再生資源化設備を導入しています。

リサイクル率は、上記の3拠点工場の取扱廃棄物全体量に対して、リサイクルした合計量を重量比で算出する方法としました。その結果、2009年度実績は84.9%となりました。

今後も継続して、目標とする「2012年までにリサイクル率90%以上」達成を目指し、更なる改善・努力を図ってまいります。

(※株式会社リサイクル・ピア <http://www.r-p.co.jp/> )

#### <参考資料> 6 リサイクル率の推移



## ⑤ 廃石膏ボードについてのリサイクル推進

廃石膏ボードは、建設廃棄物のうち、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設汚泥、建設発生木材に次ぐ、主要排出品目です。

石膏ボードは、防耐火、遮音、断熱性に優れた建築資材として幅広く利用されてきたこともあり、今後、解体期を迎える高度成長期の建築物から、大幅な廃棄量の増加が見込まれています。

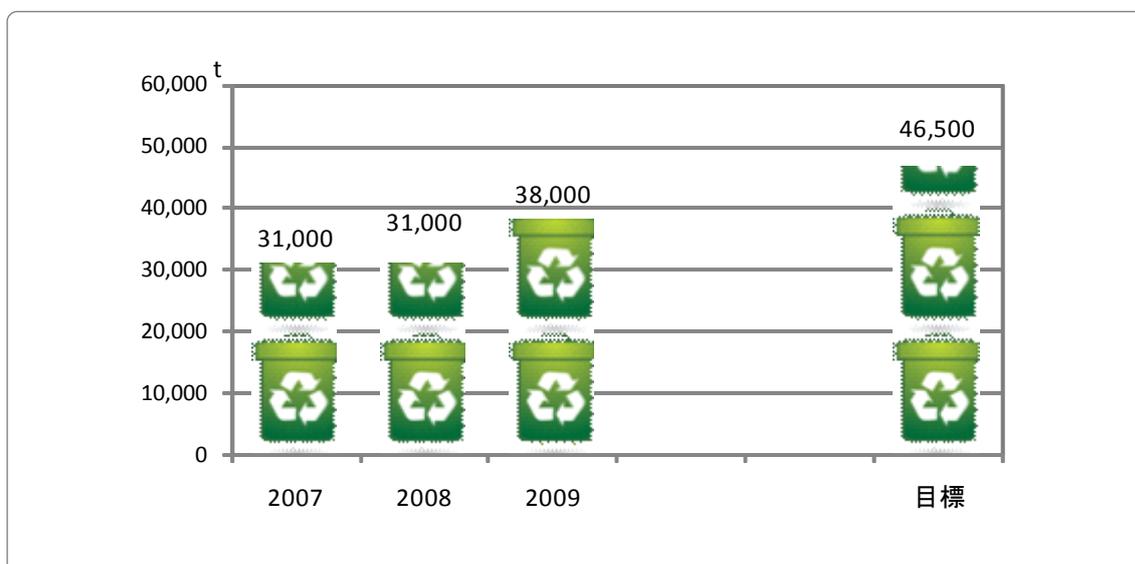
このような中、タケエイグループは、いち早くリサイクル施設の整備を図り、2003年11月には、埼玉県八潮市において、株式会社ギプロ※八潮リサイクルセンターを稼働させました。

当センターは既に創業8年目を迎え、解体系廃石膏ボードを含む国内最大級の単品再資源化工場として安定稼働しています。また、2009年9月には処理ラインを増設し、年々増加する廃石膏ボードの再資源化ニーズに対応すべく受入強化を図りました。

同年10月には、これまでの実績が評価され、埼玉県の廃棄物再生事業者として登録されました（登録番号VII-33）。

（※株式会社ギプロ <http://www.gypro.co.jp/>）

### <参考資料> 7 ギプロにおける廃石膏ボード受入量の推移



## 2. 循環型社会形成に向けた取組について

### ① 事業スキームの構築による取組

2000年制定の「循環型社会形成推進基本法」では、文字どおり「資源循環型社会への形成」が謳われています。タケエイグループは、廃棄物の資源循環のために、関係者による役割分担が重要であるとの認識から、排出者、処理業者、再資源化品の利用者による事業スキーム構築に、積極的に取り組んでいます。

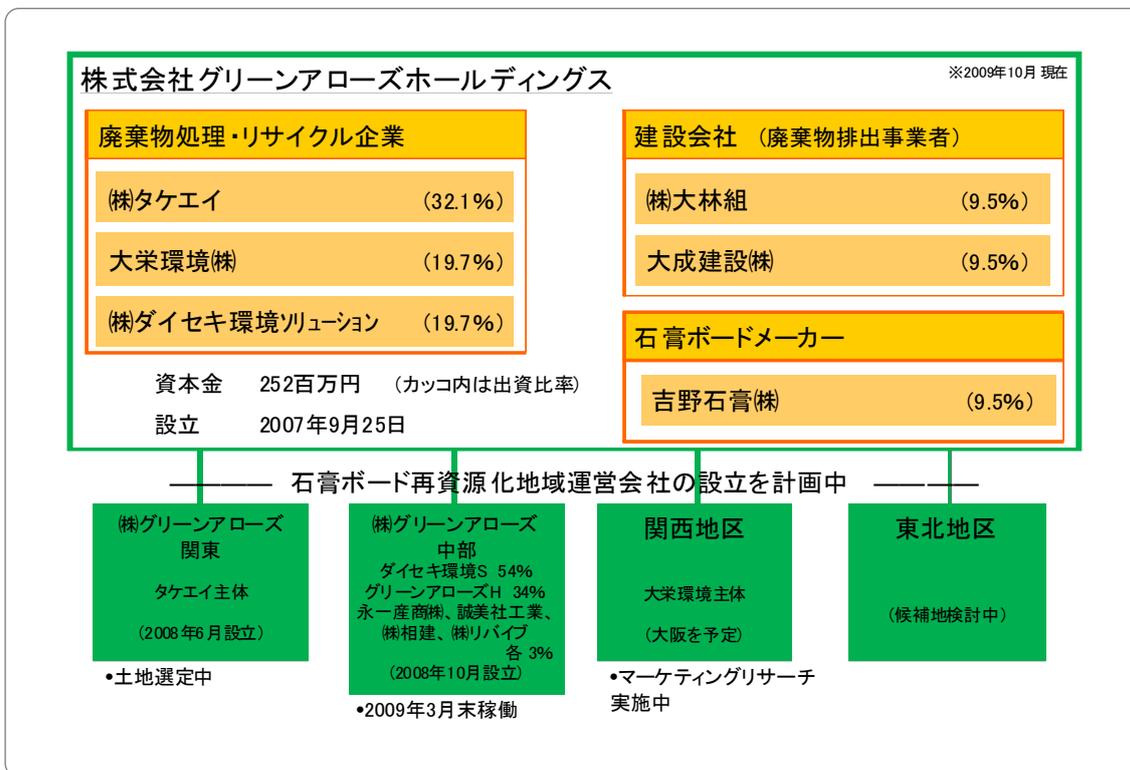
廃石膏ボードリサイクルの協業スキームとしての株式会社グリーンアローズホールディングスは、全国展開を目指して2007年9月に設立されました。

そして、タケエイが主体となって関東地域での事業運営を担う、株式会社グリーンアローズ関東（2008年6月設立）、続いて、株式会社ダイセキ環境ソリューションが主体となって中部地域での事業運営を担う、株式会社グリーンアローズ中部※（2008年10月設立）が設立され、事業化を進めています。

2009年3月には、グリーンアローズ中部が、このスキーム第1号として、廃石膏ボードのリサイクルを開始しました。

（※株式会社グリーンアローズ中部 <http://www.daiseki-eco.co.jp/gac/>）

#### <参考資料> 8 グリーンアローズホールディングス事業スキーム



## ② 単品専門の再資源化工場による取組

タケエイグループは、特定品目のリサイクルについて、単品専門の再資源化工場を充実させることで、効率性の向上、扱い量の増大を図ってきました。

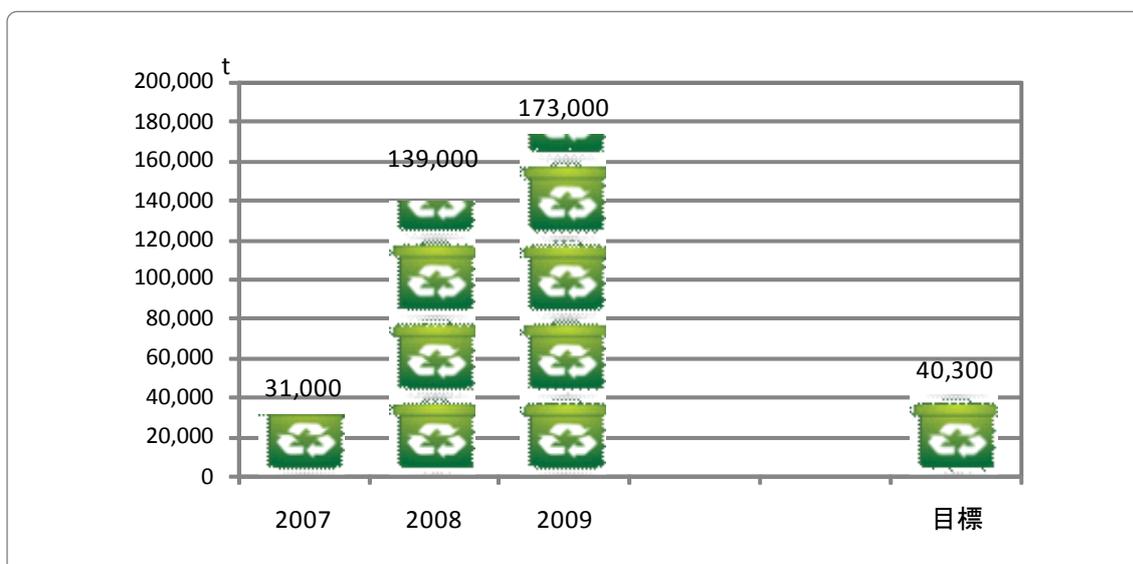
現在、廃石膏ボードを再資源化する株式会社ギプロ八潮リサイクルセンター、再生骨材・再生砕石を製造する株式会社池田商店※横浜工場、の2拠点があります。

2007年度から2008年度にかけて搬出実績が大幅に増加しましたが、これはM&A(株式会社池田商店、2008年5月)による特殊要因によるものです。このため、すでに目標を大きく上回っています。

2009年度は、前年度比24%増の17.3万tの排出となりました。  
今後も、目標を更に上積みできるよう努めてまいります。

(※株式会社池田商店 <http://www.takeei.co.jp/ikeda/>)

### <参考資料> 9 単品専門再資源化工場での搬出(再資源化)実績



### 3. 低炭素化社会に向けた取組について

#### ① 収集運搬効率の向上を目的とする実施内容

当社は収集運搬の車両を 300 台近く保有しており、事業活動に占める CO<sub>2</sub> 排出量の割合が高くなっています。このため CO<sub>2</sub> 排出削減に努めるとともに、収集運搬効率の向上を実現することで、お客様により良い収集運搬サービスの提供を目指しています。

具体的には、

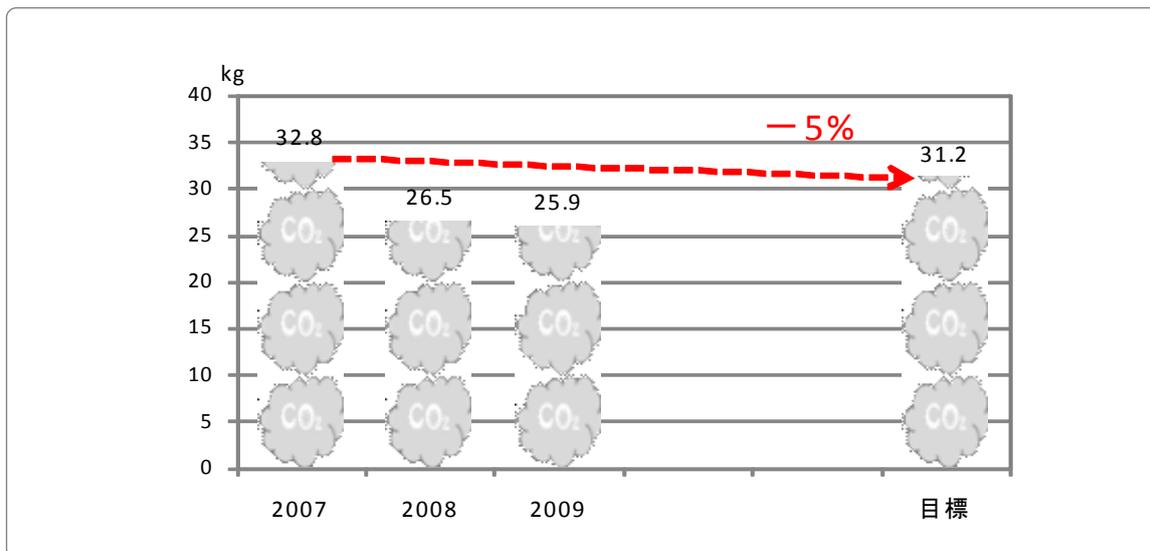
- 運転技術等向上のために、乗務員ハンドブック等を用いた社内教育を実施
- 急発進・急加速の抑制等によるエコドライブ運転の実施や、アイドリングストップの徹底
- 運行管理システムによる低燃費運転の管理

を行い、収集運搬効率の向上を図っています。

これらの取組により、回収現場 1 件あたりの CO<sub>2</sub> 排出量は、2007 年度対比で 21% 削減でき、前年度に引き続き、目標のマイナス 5% を達成しました。

今後も更なる CO<sub>2</sub> 削減を推進いたします。

<参考資料> 10 回収現場 1 件あたりの収集運搬車両による CO<sub>2</sub> 排出量の変化



## <参考資料> 11 エコドライブ推進プログラム導入によるCO<sub>2</sub>削減効果

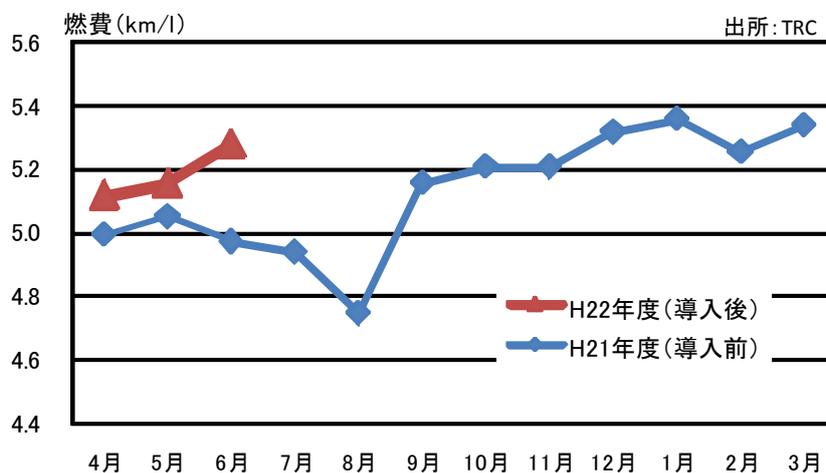
エコ・ファースト企業間のコラボレーションとして、当社と東京海上日動火災保険株式会社（以下「東京海上日動」）と東京海上グループのリスクコンサルティング会社である東京海上日動リスクコンサルティング株式会社（以下「TRC」）の3社は、共同で地球温暖化対策としてのCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

タケエイは、首都圏を中心とした廃棄物の収集運搬サービスを行っている約300台の運搬車両を対象に、TRCが新たに開発した「成功報酬型」の「エコドライブ推進プログラム」を、本年より導入しています。本プログラム導入で約6%（導入前の推定年間CO<sub>2</sub>排出量約7,000t）のCO<sub>2</sub>削減を目指しています。

TRCは、各車両に取り付けたドライブレコーダに蓄積された運転記録を収集・分析し、タケエイの環境負荷低減の取組を支援しています。また、自社の保有する自動車事故削減コンサルティングのノウハウに、タケエイとの共同取組により蓄積されたデータを加え、より充実したコンサルティング業務を目指します。

プログラム導入後3カ月のデータについては、以下のグラフのとおり、順調な滑り出しとなっています。エコドライブ講習を受講することによって、ドライバーの「エコ」意識が向上しており、運転に気を配った効果がデータにも顕著に表れるようになりました。

エコドライブ推進プログラム導入前後の燃費推移



- ・本年4-6月(3ヶ月)の前年同期比  $\Delta$ 3.7%
- ・(全社的な講習を実施した)6月は前年同月比  $\Delta$ 6.2%

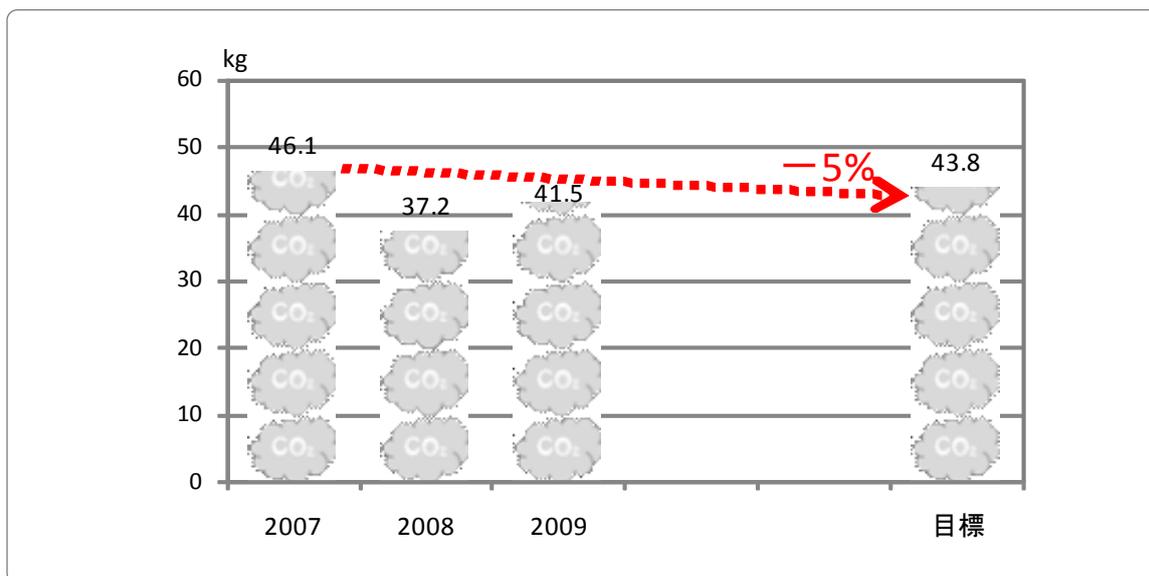
両社は、本プログラムの効果を積極的に開示することで、「エコドライブ推進プログラム」の普及および標準化、ひいては社会全体のCO<sub>2</sub>削減に向けた取組の浸透を目指してまいります。

## ② CO<sub>2</sub>削減の為の実施内容

収集運搬、中間処理、最終処分において、低燃費運転の実施、処理設備の稼働調整等を行った結果、当社の全事業活動から排出されるCO<sub>2</sub>排出量は、前年度と平べ若干増加しましたが、2007年度対比では10%削減できました。

昨年度に続き目標のマイナス5%をすでに達成してはいるものの、今後も更なるCO<sub>2</sub>の削減を目指して、引き続き、モーダルシフトやバイオマス発電施設への優先的な燃料チップ搬出等も含めて、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでまいります。

<参考資料> 12 廃棄物処理量1tあたりの当社全事業活動によるCO<sub>2</sub>排出量の変化



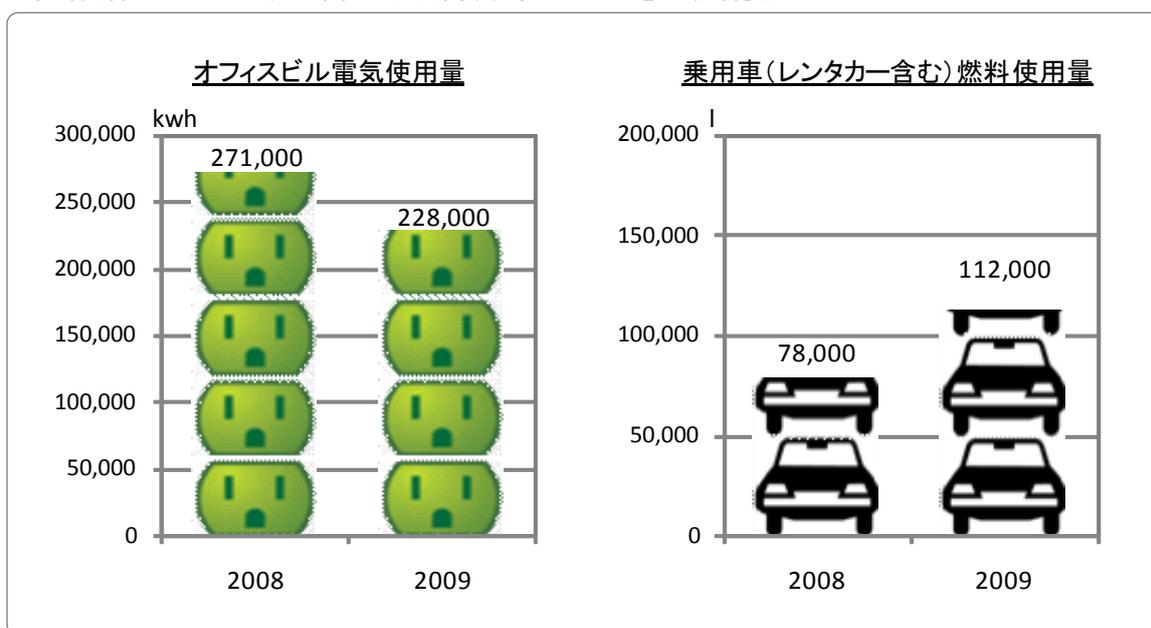
### ③ オフィス内の燃料・電気使用量削減に向けた実施内容

地球温暖化対策の一環として提唱している「クールビズ」の趣旨に賛同し、『クールビズ運動』を実施しました。

2009 年度については、オフィス内での省エネ活動に一定の成果がみられたものの、営業強化に伴う営業車両の増加により、燃料使用量は 34,000ℓ増となりました。

毎年電気使用量・燃料使用量を把握し、今後も使用量削減に向けた取組を実施してまいります。

<参考資料> 13 オフィス(本社及び千葉営業部)における電気・燃料使用量



当社は、「低炭素社会」実現に向け、「エコ・ファーストの約束」以外にも、「カーボンオフセットのメニューの提供」や、「チャレンジ25」運動への参画など、CO<sub>2</sub>排出量の削減に、積極的に取り組んでおります。

#### カーボン オフセット実施報告



弊社では低炭素社会づくりへの貢献を目的とし、産業廃棄物を運搬した際に発生するCO<sub>2</sub>のオフセットサービスをお客様に提供しています。本オフセットの趣旨に賛同いただき、ご契約及び費用のご負担をいただいたお客様の発生CO<sub>2</sub>について、下記の通りオフセット手続きが完了いたしましたのでご報告いたします。

#### 記

〔対象期間〕 平成21年10月1日～平成22年3月31日

〔オフセットの対象となる廃棄物収集運搬〕  
弊社と「カーボンオフセット付廃棄物収集運搬」のご契約をいただいたお客様の運搬

〔オフセット完了日〕 平成22年5月18日

〔CO<sub>2</sub> オフセット量〕 19 t

(実施明細)

お客様名 (五十音順)	オフセット量
株式会社大林組 様	1527.9 kg
前田建設工業株式会社 様	16872.4 kg

※ 日本国政府償却口座への移転最低単位は1tのため、切り上げて19t オフセットいたしました

〔オフセット使用したクレジット (排出権) の種別〕

CER (国連に認証されたクレジット)

〔オフセットしたクレジット (排出権) 特定番号〕

BR-000-000-013-051-632 ~ BR-000-000-013-051-650

〔本件クレジットのオフセットの方法〕

弊社より三井住友銀行に信託されたクレジット (排出権) の日本国政府償却口座への移転による

このオフセットされたCO<sub>2</sub>は京都議定書の削減目標 (マイナス6%) の達成に寄与します。

本オフセットサービスのしくみは、株式会社大成出版社発行「建設リサイクル 2009年春号」に掲載された弊社の記事をご参照ください。

<http://www.takeei.co.jp/pdf/20090601.pdf>

オフセット実施 プレスリリース

<http://ir.takeei.co.jp/html/pdf/prs20080826.pdf>

以上

平成22年6月1日

東京都港区芝公園2-4-1ダヴィンチ芝パークA

株式会社 タケイ

代表取締役 三本 守



※ 本件に関するお問い合わせ先 東京営業第四部 担当 家弓 TEL. 03-6361-6840



## 許可番号一覧

株式会社タケエイ  
平成22年1月更新

### ◆特管物処理業許可番号一覧表

都道府県・市名	業区分	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	感染性産業廃棄物	廃石綿等
東京都	収集運搬	第1354003455号	平成20年8月6日	平成25年8月5日		●
千葉県	収集運搬	第01250003455号	平成20年7月23日	平成25年7月22日		●
千葉市	収集運搬	第5550003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日		●
船橋市	収集運搬	第10450003455号	平成20年7月23日	平成25年7月22日		●
柏市	収集運搬	第11150003455号	平成20年7月23日	平成25年7月22日		●
埼玉県	収集運搬	第01157003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日		●
さいたま市	収集運搬	第10150003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日		●
川越市	収集運搬	第10350003455号	平成20年7月3日	平成25年6月30日		●
神奈川県	収集運搬	第01453003455号	平成20年6月5日	平成25年6月4日		●
横浜市	収集運搬	第05650003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日	●	●
川崎市	収集運搬	第05760003455号	平成20年7月1日	平成25年6月30日	●	◎
横須賀市	収集運搬	第05851003455号	平成20年6月1日	平成25年5月31日	●	●
相模原市	収集運搬	第09850003455号	平成20年6月5日	平成25年6月4日		●
茨城県	収集運搬	第00851003455号	平成19年3月23日	平成24年3月22日		●
仙台市	収集運搬	第05452003455号	平成21年12月4日	平成26年12月3日		●
奈良県	収集運搬	第02950003455号	平成18年10月5日	平成23年10月4日		●
三重県	収集運搬	第2450003455号	平成18年12月25日	平成23年12月24日		●
愛知県	収集運搬	第02350003455号	平成19年3月27日	平成24年3月26日		●

平成22年10月更新

### ◆一般廃棄物処理業許可番号一覧表

都道府県・市名	業区分	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	取扱い廃棄物の種類	備考
千葉市	運搬（保管・積替えを除く）	第116号	平成21年4月1日	平成23年3月31日	特定家庭用機器再商品化法対象物	運搬のみ
四街道市	収集運搬	第8号	平成21年6月1日	平成23年5月31日	一般廃棄物（し尿・浄化槽汚泥を除く）	
	中間処理	第25号	平成21年11月1日	平成23年10月31日	一般廃棄物（し尿・浄化槽汚いを除く）	
東京23区	収集運搬（保管・積替えを除く）	第1199号	平成21年8月1日	平成23年7月31日	普通ごみ	23区全て別許可
横浜市	収集運搬	第1068号	平成22年4月1日	平成24年3月31日	一般廃棄物（有害物質を含むもの並びに廃PCB及びPCB汚染物を除く）	
川崎市	収集運搬	第0117号	平成22年10月1日	平成24年9月30日	事業系一般廃棄物	
平塚市	収集運搬	第2-35号	平成21年10月12日	平成23年10月11日	普通ごみ	事業の範囲は「学校法人 平塚学園」のみ

■資格取得状況

株式会社タケエイ  
平成22年9月末現在

資格名	人数
<b>■廃棄物処理に関する資格等</b>	
中間処理施設技術管理者	6
破碎・リサイクル施設技術管理者	14
産業廃棄物焼却施設技術管理者	2
最終処分場技術管理者	2
特別管理産業廃棄物管理責任者	14
<b>■業務に関する資格等</b>	
第一種衛生管理者	19
第二種衛生管理者	3
公害防止管理者(大気1種)	1
公害防止管理者(水質1種)	1
公害防止管理者(騒音)	1
公害防止管理者(一般粉じん)	1
公害防止管理者(ダイオキシン)	2
公害防止管理者(東京都認定)	1
環境計量士(濃度)	2
エネルギー管理員	1
1級土木施工管理技士	3
監理技術者	2
低圧電気作業員	12
危険物取扱者(乙種第四類)	10
防火管理者(甲種)	24
主任計量者	5
石綿取扱作業主任者	6
石綿取扱作業従事者	15
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	10
コンクリート造の工作物の解体等作業主任者	1
ガス溶接技能者	33
アーク溶接技能者	28
<b>■車輛/重機に関する資格等</b>	
運行管理者	9
3級自動車シャシ整備士	3
車両系建設機械運転技能講習(整地・運搬・積込及び掘削用、機体質量3t以上)	94
車両系建設機械運転技能講習(解体用、機体質量3t以上)	14
車両系建設機械運転技能講習(基礎工事)	1
フォークリフト運転技能講習(最大荷重1t以上)	98
床上操作式クレーン運転士	2
小型移動式クレーン運転士	122
移動式クレーン運転士	1
玉掛け作業員	121
大型自動車運転免許	110
けん引自動車免許	22
運転適性の検査・指導者	2
<b>■環境マネジメントシステムに関する資格等</b>	
ISO14000審査員	2
ISO14001内部監査員	48
ISO9000審査員	2
ISO9001内部監査員	78
<b>■その他</b>	
環境社会検定(ECO検定)	24

■産廃関連講習会の受講状況

株式会社タケエイ  
平成22年9月末現在

実施者 および 名称	修了日	修了者数	修了番号
(財)日本産業廃棄物処理振興センター			
特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(新規) 『収集・運搬課程』	2007年10月19日	1名	第307163034号
	2009年8月13日	1名	第309140021号
	2010年2月5日	1名	第309156047号
産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(新規) 『収集・運搬課程』	2008年5月23日	1名	第108005085号
	2009年5月22日	1名	第109005042号
	2009年7月10日	1名	第109029064号
	2009年11月20日	1名	第109082027号
	2010年1月22日	1名	第109099045号
『処分課程』	2008年5月23日	1名	第208119082号
	2009年5月22日	1名	第209116041号
	2009年7月10日	2名	第209117102号
	2009年11月20日	1名	第209132037号
※ 以下は任意			
(社)全国産業廃棄物連合会			
(社)全雇用高度化事業モデル研修会	2005年11月17日～18日	1名	
(社)全廃棄物処理法施行規則に伴う各種ガイドライン等説明会	2006年7月24日	7名	
(社)全建設廃棄物適正処理実施研修会	2006年2月28日	5名	
(社)全建設廃棄物適正処理実施研修会	2007年3月8日	1名	
(社)全最終処分場維持管理技術研修会	2008年5月28日～30日	1名	
(社)全産業廃棄物処理業従事者能力アップセミナー(営業コース)	2008年9月4日～5日	4名	
(社)全産業廃棄物処理業従事者能力アップセミナー(現業管理コース)	2008年9月18日～19日	1名	
(社)全国産業廃棄物連合会関東地域協議会			
(社)全産業廃棄物最終処分場維持管理説明会	2008年2月6日	2名	
関東建設廃棄物協同組合			
関東産業廃棄物処理に係わる基礎講習会	2006年4月27日	3名	
関東建設廃棄物協会	2007年4月27日	5名	
	2008年4月22日	1名	
	2009年4月24日	10名	
	2010年4月23日	8名	
(社)千葉県産業廃棄物協会			
平成18年度産業廃棄物処理業者セミナー	2006年9月5日、10月26日	24名	
平成21年度産業廃棄物処理業者セミナー	2010年2月3日	5名	
	2010年2月12日	3名	
平成22年度産業廃棄物処理業者セミナー	2010年9月16日	5名	
廃棄物処理業者のコンプライアンス経営についての研修会	2010年9月16日	5名	
欠格要件等に関する研修会	2006年2月8日	2名	
廃掃法の改正等に関する研修会	2010年2月3日	5名	
	2010年2月12日	3名	
産業廃棄物処理実務者研修会(基礎コース)	2010年3月17日	4名	
(社)千葉県産業廃棄物協会、解体工事業協同組合、環境保全協議会			
千葉県3団体合同研修会	2010年3月16日	1名	
千葉県・(財)千葉県産業振興センター			
バイオマス利活用推進シンポジウム	2008年8月7日	3名	
東京都			
東京における産業廃棄物処理業者の適正処理・資源化の取組に係る優良性基準適合認定業者研修会	2010年6月2日	3名	
東京都・(社)東京都産業廃棄物協会			
東京産業廃棄物処理業者講習会	2008年5月26日	4名	
東京特別管理産業廃棄物の収集・運搬及び処分課程(更新)	2007年9月20日、21日	1名	
東京特別管理産業廃棄物の収集・運搬課程(新規)	2007年10月19日	1名	
(社)埼玉県産業廃棄物協会			
平成21年度産業廃棄物講習会	2009年11月26日	8名	
実務担当者研修会(法律コース)	2009年12月15日	5名	
	2010年1月27日	3名	
実務担当者研修会(廃棄物処理コース)	2010年2月22日	1名	
産業廃棄物適正処理講習会	2010年7月13日	9名	
(財)日本産業廃棄物処理振興センター			
産業廃棄物政策の将来展望	2009年12月11日	6名	
産業廃棄物処理実務者研修会(基礎コース)	2010年2月10日	2名	



株式会社タケエイ

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-4-1 A-10 階

電話 03-6361-6830 (代表) FAX. 03-6361-6835

<http://www.takeei.co.jp/>



表紙の写真：タケエイエコパークゴルフ大木戸

全国でも珍しい、自社安定型最終処分場跡地を有効利用したゴルフ風のスポーツ施設です。小さなお子さまからご年配の方まで、幅広い年代の人々に手軽にお楽しみいただけます。地域の皆さまのコミュニケーションや健康づくりの場の提供を目指しています。

<タケエイエコパークゴルフ大木戸 概要>

千葉県千葉市緑区大木戸町 1172-3

電話 043-205-2760

URL <http://www.eco-parkgolf.jp/>